

健康福祉サービス第三者評価結果 公表 共通様式

1 事業者情報

福祉サービスの種別	保育
事業所名	守山市立吉身保育園
代表者氏名（管理者）	園長 河本 恵里
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会
定員（利用人数）	150名（163名） 分園 25名（23名） いずれも30.9.20.現在
施設・事業所所在地	守山市吉身二丁目6番61号 分園 守山市吉身三丁目2番26号
T E L	077-582-4477 分園 077-583-3667
F A X	077-582-4477 分園 077-583-3667
電子メール	yoshimi_enchou@rakuwa.or.jp
ホームページアドレス	http://www.rakuwa.or.jp

2 第三者評価機関

第三者評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター
評価実施期間	平成30年12月10日と12月12日

3、 評価の概要

○総合評価

吉身保育園は昭和46年に開設され、地域のニーズに応えながら40年余の歴史を刻んできた。平成22年4月には、守山市から社会福祉法人洛和福祉会に運営を託され8年が過ぎた。その間、市の乳児保育枠増員政策により平成26年7月には吉身小学校敷地内に定員25名の乳児保育施設が分園として開設され、家庭的で豊かな雰囲気づくりを心掛けた運営に力を注いできた。

乳児保育では、大人との信頼関係が情緒の安定を図る大切なベースになることから「育児担当保育」によるクラス運営を取り入れ、幼児保育では、子ども同士の育ち合いを育む為に「たてわり保育」をベースにして、同年齢や異年齢の子ども達との交流を開放的かつ流動的に活動できる環境を構築することにより、日々の自然な触れ合いを大切にした保育を工夫し組み立てている。

また地域密着の協力支援を積極的に受け入れ、伝統を生かせるように保育内容の工夫に努めている。

「あたたかい思いやりの心をもった子ども」「自分の考えをもって行動できる子ども」「生き生きとした強く明るい子ども」「人権を大切にすることを育てよう」という保育目標を日々の実践に活かし、園長を始め全職員の心が通じ合う取組みが、子ども達の成長の中に今年度も着実に積み上げられてきている。

○特に評価の高い点

1、育児担当保育、たてわり保育等の保育実践を通して、人と人とのつながりや育ちあいが豊かに育まれる保育を継承し発展させている。

- ・乳児保育では、「育児担当保育」をとり、泣いたり笑ったり細かい表情の変化で欲求を伝える乳児の微小なサインにも気付き、的確に受け止め一人ひとりの子どもの期待・希望・要求等の気持ちに寄り添い、タイミングよく応えることを大切にすることで情緒の安定を図り、自分の気持ちを安心して相手に伝える意欲や行動につながるよう配慮しながら、全職員が連携を取り合い協力し合っている。

- ・幼児保育では、異年齢児で遊びと生活が共に体験できる「たてわり保育」を通して、年齢の違いを一人ひとりが受け入れ、自分ができる事を他の子どもに伝えたり、そこでの自己達成感が自信につながったり、仲間意識が芽生える等、人間関係の基礎が養われていく。

年長の子が年下の子を思いやったり、いたわったりする姿がみられ、下の子は尊敬の気持ちを抱くと共に“見てまねて学び教える”という成長過程の様子が見て取れ、子ども同士の関わりの中で学ぶという場が、日常生活の中にあふれている。

2、保護者と園や保育士との連絡・コミュニケーションについて

- ・乳児組の保護者と保育士とが毎日記入している連絡帳は、非常に克明に記録されており、相互の意思や希望が十分に交わされて保育に反映できるので、子ども達の状況に応じた対応を通して伸び伸びと過ごしている。

- ・幼児組の保護者と保育士との連絡は、特記事項が必要な時に担当保育士が職員連絡表に記載して送迎時の担当保育士が保護者に確実に伝える様心がけており、夫々の担当保育士印を押して確認することで伝達記録として活用している。名前をマグネットで張り付けた各クラスのホワイトボードに、連絡表記載の子ども名前は別枠に張り替えて、保育室を移動ごとにホワイトボードと連絡表を持参し、口頭で次の保育士に伝えて確認印をもらい、保護者に伝えた時はその子どもの名札を別枠から普通の場所に戻して漏れないように対応している。こうして連絡の漏れないよう注意するとともに、面談が暫く出来ていない保護者には、担当保育士が直接話す機会を作るよう心掛けている。
- ・乳児から幼児に上がると連絡帳がなく日常の事が伝わり難い事を考慮し、日頃言葉を交わす機会の少ない保護者に意識して声掛けするように努力した結果、保護者アンケートでは本園94%分園100%が、園、クラスや子どもの様子が分かり易いと満足度の表明をしている。
- ・当園には看護師が常駐し、保育士で判断に困る事でも看護師の助言が得られ、職員、園児や家族にとっても安心感が得られている。特にアレルギー対応に関する相談は、症状が変化する中で大きな保護者支援となっている。
- ・子どもからも保護者間からも名前や状況を知り合い、卒園式で下の子の保護者からお祝いの言葉を掛けられ、卒園する子どもも喜びが大きい。

3、振興会と愛園活動について

- ・保護者会といわれている組織を本園では振興会、保育園の整備・清掃などの協力活動を愛園作業と呼び、この呼称を伝統として受け継いでいる。振興会の役員は毎年交代するが、その活動は、文字通りの精神を生かした活動を継続している。
- ・玄関横の棚に設置しているご意見箱は伝統として振興会が管理し、投函された場合はまず振興会で検討することで園運営に協力している。
- ・「あいさつは、コミュニケーションの第一歩」を園の方針に掲げ、民生児童委員と共に振興会役員も加わって浸透に協力している。

4、食育の取り組みを全職員で推進している

- ・大きなガラス窓越しに調理室を見ることができ、給食を楽しみにしている子ども達が調理師に声をかけ、食事時には調理師が保育室を訪ねて皆の食事の様子を見たり話し合ったり等、園児の反応を調理に活かしている。毎回手作りおやつを心掛け、また、園児が育て収穫した食材を給食に使うなどの食育にも努めている。
 - ・毎月家族宛に給食献立表を発行する内容など、保育士、看護師とも連携を取り合いながら食育に取り組んでいる。子ども達の人気メニューレシピを記事に載せる等、保護者から高く評価されている。分園にも本園で調理したもの提供している。食事に関する保護者の評価は、本・分園ともに100%の満足度を示している。

5、5年目を迎えた分園

- ・分園も設立以来4年経過し、ハード面の改善が年々進められて来ている。

小学校内にあることから、特に当初は危険個所や生徒達との関係など安全第一で運営してきたが、生徒達にも保育園が馴染みとなり、日常的な触れ合いや交流が出来てきた。園庭外周や中庭は自然豊かな環境に恵まれて、園児達は小さな虫やいろいろな花を挿して走り回って遊ぶことを楽しみ、足の丈夫な園児が育っている。

本園との連携もスムーズに行われ、特に分園の2歳児が本園の3歳児に移行していくことを前提に本園での園庭遊びを経常化するなど連携体制の充実を図っている。

- ・保護者アンケートの回収率が96%(23名中22名が提出)を達成し、昨年の42%から素晴らしい改善結果を示した。そのうち全員が100%満足であると評価した項目は、①保育内容の説明②自然に触れたり地域に関わる園外活動③園やクラス、子どもの様子伝達④送迎時の保育士との情報交換⑤献立表等で給食内容が解るの5項目に上がっている。

6、地域ボランティアと強い提携関係を維持発展させている

- ・当園でお世話になった孫たちの祖父母が中心になって結成しているボランティア・グループ・ハッピーさんの活動の協力支援は継続的であり、行事後の評価や次回への反映などの打ち合わせもできる強固な関係が築かれてきているので、年間カリキュラムに組み込まれ、子どもたちも来園を楽しみに待っている。
- ・絵本の読み聞かせ会とも継続的な関係が出来ており、楽しみにしている子ども達と共に、保育士にも参考になる活動だと喜ばれている。毎月来訪され、グループ(年齢)毎に子ども達が絵本の世界に入って楽しめる物語や季節を考えることが出来るお話や時には紙芝居も見せてもらい、終わると「もっと読んでー」と皆のリクエストが飛び交う楽しい時間となっている。3月の年度最後には、有難うの気持ちを込めて子どもたちからメッセージや似顔絵のプレゼントが贈られる楽しい会となっている。
- ・5歳児を対象とした英語を楽しむ会では、現地人と聞き間違えるほどのリズムと発音をしている子ども達が育ち、サッカー教室でも、将来の名選手を目指した子ども達が活動している。

○改善を求められる点

1、事故防止対策について

- ・事故報告書に関しては、発生件数は減少し、その処理は適切なものであった。
- ・ヒヤリハット記録をまとめて月1回、内容の分析と防止策を確認し職員会議で共有している点は前進している。ただ件数的には、少なすぎるものと思われる。気づきのセンサーを高めて、そのヒヤリハットの記録内容の分析から、より一層の事故防止対策へと進展することを期待している。
- ・消防用設備等の自主点検の記録化(現在は目視のみ)と災害時備蓄物品の整備(消防計画に定められているものについても未整備)を期待したい。

2、室温管理について

- ・換気のため窓を開けることは必要であるが、トイレが寒く、特に乳児組ではおむつ交換や便器に座る時の配慮が求められ、冬季には暖房も必要と思われる。対応策の検討を期待したい。

- ・小学校校舎という条件下の分園での廊下の温度管理は特に難しいと思われるが、ズボンやパンツの着脱で下半身裸になる子どもがほとんどなので待つ時間を少なくしたり、トイレへの呼びかけ等に配慮が必要と思われる。

3、分園の押しドアを引き戸への変更について

- ・5年目を迎えてハード面での改善がほぼ完了したところであるが、唯一残っているのが0,1歳児教室に廊下から入るドアが押しドアとなっている。具体的には廊下から教室に入る時に内側にいる園児に当たる可能性があり、引き戸にすることで事故防止を図ってほしい。事故が起こってからの修理にならぬよう、早急な改善を望みたい。

4、事業者のコメント

洛和福祉会で運営をさせていただき9年目となります。保育士と共に学びながら大切にしてきました育児担当保育やたてわり保育を通して、保育目標に掲げています子どもの姿が育つよう、日々の保育に取り組んでいます。また、保護者の皆様や園を見守ってくださっている地域の皆様との連携を大切にすよう、温かい保育を心掛けています。今回高い評価をいただいた点は今後も継続できるよう、職員と共に努力してまいります。また、改善点につきましては、現在行っているヒヤリハット記録を事故防止へとしっかりとつなげられるように方法を検討し、本園・分園の室内環境面においても改善ができるよう工夫していきたいと思います。今後も、保護者や地域の皆様のご支援、ご協力を得ながら、安心・安全な園づくりに努めてまいります。